

== 特集 =====

音楽を患者さんとともに

藤田保健衛生大学医学部病理学 堤 寛

私は、文字通り“40の手習い”のオジサンオーボエ(NOTオーボエ)吹きです。学生オーケストラの中で鍛えられ、患者さんに励まされて早19年。オーボエというダブルリード楽器はリードが命。でも、私の場合、リードは“おっしょうさん”だより。師匠は、東京都町田市在住、もと東京フィルハーモニー団員のSM先生。2週に一度の2時間の個人レッスンが学生並みの1万円。いつも、特製のリードを4本いただけます。どんなにへたくそでも、決して怒らない超ベテラン。この上ない贅沢なレッスン環境をもつ、世界一(?)幸せなオーボエ吹きがこの私なのです。

2003年3月に産声をあげたNPO法人びあサポートわかば会(2009年9月に法人化)は、愛知県で活動するがん患者会であり、セルフケア、ピアサポート活動(患者同士による支え合い)を活発に展開し、がん患者の自立・アドボカシーを目指すとともに、患者と医療系学生と医療者、そして障害者がいっしょになって、“音を楽しむ”活動を実践してきています。題して、「輪の和」。わかば会の設立から深く関与してきた私は、理事長である寺田佐代子氏のピアノ伴奏を得て、5枚の非売品CDを残すとともに、“こころのケア”活動の一環として、患者会活動の中、老健施設、医療施設、ホスピス、ハンセン病施設など、あちこちで演奏の機会をいただけてきました。患者さんと直接対話することで、患者さんの本音を聴くと同時に、病理医・病理診断に対する大きな期待を実感してきています。

2006年秋、和歌山で開催された日本病理学会秋期特別総会の市民公開講座の中で、学会史上初めて、病理医による手作りコンサートが開かれ、4組の演奏が好評でした(仕掛け人=堤)。患者さん・市民のために演奏することの喜び、楽しさを病理医一同が再確認させてもらいました。2009年5月には、第98回日本病理学会総会の翌日に、京都で「輪の和」コンサートを開催しました。病理学会会員と患者自身による患者支援活動(“がん対策基本法”に明記された目標)であり、わかば会の「輪の和」活動が、病理医の応援を得て、さらなる発展をする1つのステップでもあったわけです。

患者と医療者がいっしょに、“こころを込めて”一所懸命に演奏する、そして、何より「音を楽しむ」。その結果、聴いていただいた方々の心がなごみ、笑顔が、そして場合によっては、何と涙までいただけます。医師も患者もない一体感は、この活動の原点であり、モチベーションとなっています。音楽に、患者・障害者・医療者の壁はありません。この共同作業を継続し、日本中に浸透させたいと願っています。

そう。2011年4月28日には、遂に日本病理学会オーケストラがデビューします(仕掛け人=堤)。現在、登録メンバーは120

名を超えます。当日は、市民公開の形で、患者さんに病理医からこころを込めた音楽を1時間プレゼントします。この活動を通じて、患者さんや市民に病理医の存在やしごとの内容を周知したいのです。よろしくご支援ください。

NPO法人びあサポートわかば会:

<http://www.np0wakabakai.com/index.shtm>

私の趣味 「ファゴット」

岩手医科大学病理学講座分子診断病理 上杉 憲幸

中学時代、吹奏楽部だった関係で、大学時代はオーケストラ部に在籍しておりました(バドミントン部との掛け持ちでしたが)。中学校時代はクラリネットを演奏しておりましたが、大学からファゴットを始めました。現在も学生のオーケストラのお手伝いをしておりますが、ここ数年は演奏会にも出ず、裏方に徹しております。

ファゴットは、別名バスーンと言い、木管楽器のなかでは一番音の低い楽器です。クラシック音楽になじみの薄い方にとってはポピュラーではない楽器ですが、ソロの曲も数多く書かれています。自分ではこの楽器を演奏することができて良かったと思うのですが、いくつか問題点があります。ひとつは楽器自体の重量が重い、ということです。低い音を出すためには、楽器自体が大きいことが必要となります。計ったことはありませんが、重量は一般的に5kg位とされており、ケースも含めると約10kgになります。ストラップで首からぶら下げて演奏するので、長時間演奏すると首や肩が非常につらくなって来ますし、移動の時などはフルートなどの方を大変うらやましく思います。二番目は、楽器が高価であることです。安い楽器でも60万円前後、高いものだと車を買える程の値段です。私の楽器は中古でしたが、クラリネットなら4台は買えそうな価格だったと思います。とても「もう一台」というわけには行きません。もう一点は、「ダブルリード」楽器であるということです。クラリネットやサクソフは「シングルリード」楽器で、「マウスピース」という、口に加えて息を吹き込む部分には、葦でできた「リード」が1枚ついていて、これが振動して音のでる仕組みになっています。ファゴットやオーボエは「ダブルリード」で、二枚の葦を合わせて組み立てたリードの中に息を入れて音を出す仕組みになっています。このリードは消耗品で市販品は1本3000円前後するので、自分でリードを作る方も多く、私も学生のころより自分でリードを作っていました。しかしながら、使用に耐えるものを作ることは中々大変で、数十本作って数本使えるかどうかで、結局は市販品を使用する羽目になります。学生のころは毎日練習していたので、一ヶ月に一回くらいはリードを購入していましたが、年を追うごとに楽器を吹く機会も激減し、リードの消耗もほとんどなく、

経済的には助かっております。

病理関係者の中ではファゴットを演奏される方はほとんどいないのが現状ですが、御興味を持たれた方は、これを機会にCDなどでファゴットの音をお聴きになられれば、嬉しく思います。

課外活動

埼玉社会保険病院病理部 清水 健

6年前から現職場に常勤病理医として勤務しています。自宅(栃木県足利市)から職場(埼玉県さいたま市)まで片道2時間かかる通勤に加え仕事をこなすために週2日外泊しているため、課外活動はもっぱら週末に限られています。私にとって、課外活動はオーボエ、自転車の2つです。前者は30代半ばからはじめ20年になろうとしており、前職場(獨協医大)の学生オケや師匠が指揮する自治医大学生オケに所属し定期演奏会を楽しんでいます。また現病院にも数年前から管弦楽部が発足し、病棟でのコンサートなどを行っています。今回は後者に焦点を当てて書きます。

この頃、街中で自転車が aumentato と感じませんか。ママチャリに乗った中学生や高校生に混じり、通勤に(ママチャリとは異なる外観の)自転車を利用する成人(ジテ通と言います)が少なからず見受けられることにお気づきでしょうか。数年前のエコブームを発端に、さらにジテ通はメタボ解消、健康増進に役立つこともあり若い人ばかりでなく中高年の間でも自転車が広まっています。また休日には郊外やサイクリングロードなどで多くのサイクリストをみかけます。近頃では華やかなウェアに身を包んだ女性サイクリストに出会うこともたびたびあります。

このような自転車はバイクと呼ばれ、ママチャリとは区別されています。外見ではドロップハンドル(ロードバイク)あるいはストレートバー型ハンドル(クロスバイク)、細いタイヤなど違いが明らかで、サドルが高く前傾姿勢で乗るようになっていきます。泥除け、荷台、カゴ、スタンドもありません。変速機は前が2~3段、後が10~11段となっており、40km/hを超えるような高速にも、斜度のきついヒルクライムにも対応できるように設計されています。フレームの素材は従来鉄(クロモリ)でしたが、重量が軽い方がスピードを出すにも急坂を上るにも楽なので近頃はアルミ、カーボン、チタンといった軽量金属も使われています。鉄製の重いものでも10kg弱と軽く、さらに軽量なものでは6kg台のバイクもあります。もちろん、重量に反比例し結構な値段がしますが。

私もクロモリのロードバイクを所有しており、課外活動として週末のランを楽しんでいます。2年前に中学校の学年同窓会が開催されたおりに結成された自転車部が活動の拠点です。当初は近隣の(たとえば市内の七福神めぐり)往復20kmぐらいはじめ、現在では埼玉県川越市まで往復120km、渡良瀬川サイクリングロードを利用した100kmのランなど走行距離も増えてきました。活動範囲を広げるため往路か復路いずれかに自

動車、電車を利用し輪行を行うこともあります。先日は往路に電車を利用し日光まで行き、90kmの復路を自転車車で帰ってきました。爽快な杉並木を通り、途中で美味しい郷土料理を頂きとても楽しいランでした。

メンバーは8人で、順番に幹事役を担当しています。幹事は次回の走行計画をたて、活動後にはデジカメ写真を交えた走行内容の報告をブログにアップします。気の置けないメンバーとの交流は忙しい日常生活の中の良いアクセントになっており、自転車部の活動はストレスから開放される貴重な時間といえます。

走ることに語るときに僕の語ること

広島西医療センター 研究検査科 立山 義朗

趣味といえるかどうかわかりませんが、ここ十数年くらい私は『走ること』を楽しんでいます。私には村上春樹のような文才はありませんが、タイトルだけは村上春樹風にしてみました。私たち病理医は剖検や迅速診断あるいは病理診断結果報告などで何かと拘束されることの多い中で、勤務時間外や休日には比較的自由に時間を設定して過ごすことが可能ではないでしょうか。その自由時間の過ごし方の一つとして私は『走ること』を選びました。

学生時代にはマラソンほどきらいな競技はありませんでしたが、どうして今こうして走っているのかと言いますと、『中年太りの体型をなんとかしたい!』と思ったからです。言うまでもなく運動だけでやせることはできませんが、走っているうちに『走ること』には多くのメリットがあることがわかりました。まず、『手軽にできる』、『相手がいない』、『金がかかりかからない』、『時間を気にせずに自分が好きな時に好きなだけでき、逆にやめたければいつでもやめることができる』、『苦しさを乗り越えればあとで爽快さが待っている』、『頭の中を空(から)にできる(最初から空という話もありますが・・・)』、『体の調子がすこぶるいい』などがあります。

それから『走ること』においてもう一つ言っておきたいことは、走っていると『1日の時間や1年の四季の変化を体感できること』です。美しい朝日や夕日、カラッと晴れた空、どんよりした厚い雲の日もあります。ちょうど今の時期ならば肌に突き刺すようなこがらし、春になるとこちよい風に舞う桜吹雪、夏には蝉しぐれと涼しい木陰、秋には真っ青な空と紅葉といった自然をじかに楽しむことができます。

当初の『やせたい!』という願いはまだ叶えられてはいませんが(努力中!?)、今や日本全国あちらこちらで年中開催されている市民マラソンレースのいくつかに参加するようになってから時間内完走という目標だけは達成するように頑張っています。そのために練習計画を立て(Plan)、行動に移し(Do)、レースを反省し(Check)、改善点を次に生かす(Action)、そしてまた新たな計画を練るというPDCA cycleを実践して自己の客観的評価をしています。過去のレースにおける数多くの失敗を重ね

たおかげで、最近では目標通りにいかないことはほとんどなくなりましたが、何回走ってもうまくいった時は『自分もできる!』という自信になると同時に、『もっと難しい目標にチャレンジするぞ!』という思いも芽生えてきます。

2010年2月には東京マラソン、12月には奈良マラソンを走りました。もちろんレース翌日には普通に仕事をしています。このように『走ること』を通じて仕事の面でもチャレンジ精神が生まれ、いい影響なのかなと自分でも感心しているところです。

課外活動

東大阪市立総合病院 病理診断科 山内 周
無になって、風をきって走る。私の「課外活動」はマラソンである。いや、病理診断という本業よりも、むしろ走る方が本業であるかのような錯覚を覚えることがあるので、どちらかと言えば、病理診断が課外活動であるのかもしれない。

最初にマラソンレースに出場したのは、私がまだ香川医大に所属していた15年ほど前、小豆島においてであった。家内が勝手に申し込んだのだが、「小豆島オリーブマラソン全国大会」という大きな大会で、温暖で心地いい初夏の小豆島を、風をきって走る気持ちよさに、私はとりこになった。それ以来、走ることに熱中するようになり、フルマラソン完走数回を数えた。

しかし、数年前ドイツへの留学を経て、大阪へ生活の拠点を移し、しばらくは仕事に忙殺された日々で、全く走ることができない時期が続いた。走ることに對する熱意も全く無くなっていた。しかし昨年、気がついたら体重が以前に比べてかなり増えている事に気が付き、これではまずいと思って走り始めた。また同じ頃、市川海老蔵が肉体を鍛え上げて、いい女性を次々にゲットしているという記事にも刺激を受け、自分もあやかりたいと体を鍛えようと思った。その後、仕事の忙しさもあって数ヶ月で一旦走るのを中断したが、今年(2010年)の夏から再開し、週末を中心に長距離走を行っている。7月にランニングを再開してから、12月初めの現在までの4ヶ月あまりで約10kgの減量に成功し、かつてフルマラソンを何度も完走していた頃の体重に戻っている。フルマラソンで3時間を切ることをサブスリーというが、これは市民ランナーの勲章である。私は今、未だに達成していないサブスリーを、45歳を過ぎてから達成しようという無謀な事をもくろんでいる。10月、11月と和歌山、大阪でハーフマラソンの大会に出た。全盛時の自己記録にはまだ及ばないが、かつての感覚を取り戻しつつある。

マラソンとは異なる話のだが、最近、新聞の広告で、三島由紀夫がホテルのプールサイドで撮影したという写真を見た。相当に鍛え上げていると思える体で、上半身は逆三角形で引き締まっていた。私は三島由紀夫がきらいだったが、その写真を見て、単純にかっこいいと思った。その写真を見て、私もマラソンの記録だけを追い求めるのではなく、マッチョになろうと誓った。

幸いなことに、大阪近辺では、マラソン仲間も多く、大会も

様々ある。病理関係者でもマラソンという共通の趣味を有する後輩もいる。「課外活動」を行うのに恵まれた環境である。ただ、仕事は忙しく、週末も忙殺されて走ることができないこともある。今の私は、この積み上がった標本の山を、いかにクリアーして走る時間を確保するかという難題を目の前にしている。しかし私は、私を応援してくれている人のためにも、仕事とマラソンの二足のわらじを両立させていきたいと思っている。

潜りの病理医

九州労災病院 検査科 病理科 濱田 哲夫

50才を越えた頃から感動する事物や機会がめっきり減り、精神生活が平坦になってきたような気がして、これが老化かと思いを巡らしていました。そのうち、気がつきました。人生が熟して仕事・生活が定常化すれば、自ら求めなくては目を見張るような時は過ごすことは出来ない。まずは、豪州のエアーズロック・ツアーを夢に、大型自動二輪の免許取得を目指しました。教習を真面目に受け、同級生の剃り上げ・茶髪兄ちゃん達とともに無事いっぱつ合格。暫く忘れていた感激を味わいました。「まだ、やれる!」

さらに機会が訪れました。有志(?)が発案したとやらで、歴史ある九州沖縄スライドコンファレンス(第280回)が平成16年7月、何と奄美大島で開催されることになり、宿で見た体験ダイビングのチラシが始まりとなりました。スキンド이버(それまでの私)はScuba(Self containing underwater breathing apparatus)を嫌い、器材は使わず潜水します。しかし、40分から1時間以上海中を楽しむ事が出来て、しかも奄美の海の美しさも加勢し、たちまちダイビングに没頭してしまいました。ほんの体験のつもりが、9月の連休には講習を受け、ライセンス(Cカード)を取得。その後、季節を問わずレベルアップを目指しました。潜りの病理医の誕生です。

近代的なダイビング法は元来、米国海軍の軍事作戦の一つに基づいており、ライセンス取得のための講習自体が非常に組織的で、かつレジャーダイビング団体が娯楽要素をふんだんに加味しています。講習は基本的に1)潜水自体の基本技能、2)潜水に關係する周辺技能、3)安全講習からなります。具体的には、器材のセッティングに始まり、ディープ・ダイビングなどを経験し、レスキューを覚えます。レスキューでは、米国心臓病学会のBasic Life Supportに準じた講義・実習もあります。

海は地球表面の71%を占め、平均深度は、約3800 m。レジャーダイビングの推奨深度限界は40 m。何と上っ面しか味わえないことでしょう。しかし、テレビなどで見る珊瑚と熱帯魚の綺麗な光景はほとんどが40 mより浅い深度です。光合成の限界深度に一致し、魚類の約70%が観察されます。さて、行動範囲が拡大すると、新たな驚きが味わえます。何と、海の魚の多くはメスからオスに性転換し、一方、カクレクマノミは大きくなるとオスからメスになり、グループの主となります。可愛い姿態を

していますが気は荒く、写真を撮ろうとしても向かってくるので近くで横向きの姿勢を撮影するのは容易ではありません。海では、その他、驚嘆・感激するようなことを多々味わえます。ダイバーには、マクロ派、地形派などいくつかのスタイルがありますが、私は自称、浮遊派。海中でのんびり揺られて眼前の光景をぼんやりと眺め、リラックスしています。

気象予報士になって

NTT東日本札幌病院病理科 水無瀬 昂

私は老後の趣味の準備のために勉強した気象予報士試験について書きます。

特に恐い思いをしたわけではないのですが飛行機に乗ると手は汗でビショリ。従って旅行はもっぱら列車になり、青函連絡船の時代は、東京までほとんど一日がかりの大仕事でした。10年ほど前に仕事でカナダに旅行した折り、短期間で7回飛行機に乗らざるを得ない場面に出くわし、はらはらドキドキ生きた心地がしませんでした。ふと飛行機の窓からぼっかりと浮かぶ雲を見た時、「いいな・・・」と思うのと同時に「どうして浮かんでいるのだろう・・・」という疑問がわきました。

このことがずっと頭に残っていたせいだと思うのですが小倉義光著「一般気象学」を手にする機会があり読み始めました。雲のでき方から気象全般のことがわかりやすく書かれていて、どんどん引き込まれました。ところが1/3くらい読み進んだ頃からよく理解できなくなりました。この本は気象予報士試験のバイブルのような本とされていて、最後まで読むために副読本のつもりで気象予報士試験の攻略本を何冊か購入しました。これが結果的に気象予報士試験に挑戦する引き金となりました。試験は年2回あり、学科「一般知識」と学科「専門知識」、実技「I」、「II」に別れています。

気象の勉強をして初めてわかったことは、天気図は沢山あって、私達が日常目にしてる地上天気図はそんな中の1枚であること、この他に高層天気図などが何枚もあること、気象現象はこの高層の大気の流れを見ないと予想できないこと、衛星画像には可視画像の他に赤外画像や水蒸気画像などがあって夜中も赤外画像などで監視できていることなどです。ダウンバースト、晴天乱気流など飛行機の大敵もウインドプロファイラなどを駆使して監視しています。予報のためにはアメダスをはじめとする全国の監視網、全世界の色々なデータを処理する必要がありますから当然スーパーコンピュータが必要です。実は、分析地点をどんどん細かくし、膨大な量のデータを高速のコンピュータで瞬時に処理できたら将来の予測は完璧にできると思っていたのですが、そうはならないことも分かりました。カオス理論などで説明されるように複雑系の解をずっと先まで得ることは難しく、ある程度自信をもって予報できるのはたかだか一週間程度のものだというのです。医学の中で育った私にとっては初めて見聞きすることばかりでワクワクしながら楽しく学べ結局2年、3度目の挑戦で幸運にも合格できました。この過程で

飛行機恐怖症が消滅しました。ガタガタ揺れる場所は舗装されていないデコボコ道みたいなものだと思うようになったことが大きいようです。

ところで、私の気象予報士試験合格の目的ですが、将来キャスターとしてTVに華々しくデビュー・・・なんてことでは勿論ありません。老後にただ「ボーっと雲を眺めて過ごす」ため、その準備はできました。

==海外留学報告===== 海外留学手記

新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・病態病理学分野
准教授 西倉 健

私は2007年10月28日から翌年10月31日までカナダのトロント大学マウントサイナイ病院 病理学・検査診断部門(Pathology & Laboratory Medicine, Mount Sinai Hospital, University of Toronto, Canada)で客員研究員として研修を行った。もっと腰を据えたかったが、家庭の都合もあり1年間限定の研修であった。

トロント市はカナダ最大の都市でありオンタリオ州都でもある。面積約630km²、人口約250万人のメトロポリタンであるが劇場、博物館、スタジアム(アイスホッケー、サッカー、メジャーリーグ)や大規模公園など文化施設が整備され、生活水準が高く犯罪発生率も低いことから世界で最も住み易い都市にランクされている。またカナダ最南端に位置しオンタリオ湖に接しており気候は温和であるが、やはり冬季は-15℃程度まで低下し雪も多い。

トロント大学は1827年にキングズカレッジとして創立された由緒ある大学で、トロント市ダウンタウンに位置し北米全体で5番目の規模を誇る。計8名のノーベル賞受賞者を輩出し、医学分野ではインスリン発見やアルツハイマー病研究などで有名である。マウントサイナイ病院は、トロント総合病院、トロント小児病院などとならんでトロント大学医学部関連施設であり、大学から徒歩数分の所に在る近代的な病院である。研修先の病理学・検査診断部門は病院6階で、消化管、軟部組織、婦人科、血液、乳腺、小児などの病理部門が独立し計8名の教授が配属されている。スタッフ医師31名、他に非常勤医師、秘書、院生など総勢150人強の大所帯である。直接指導して頂いたのはRobert H. Riddell教授である。消化管病理、特に炎症性大腸疾患と大腸腫瘍では世界屈指の病理学者で、「Dysplasia」の用語と概念を提唱したことで遍く知られている。その彼とほぼ毎日マンツーマンで標本を観察しディスカッションできたことは、私にとってかけがえの無い貴重な体験となった。1年間の滞在期間に共に検鏡した症例は、計560例(食道56、胃99、小腸41、大腸309、虫垂18、肝・胆37)に昇る。Collagenous colitisやCoeliac病など日本では比較的稀な疾患に多く触れる一方、我々には日常茶飯事のH.pylori関連胃炎にほとんど遭遇しないなど、新鮮な体験の連続であった。また日本では「carcinoma (in situ)」で通用する粘膜内病変が、「(high-grade) dysplasia」

と表現されるギャップがあったが、組織学的特徴から「同じもの」を見ているとの共通認識を得たことは大きな収穫であった。さらに日本でも増加しつつあるGERD患者を多数集積した前向き研究プロジェクトに参加、トロント・ガットクラブとオンタリオ病理学会で発表を行うことが出来た。短期間であれこれと欲張ったため大変多忙な生活を送ったが、Riddell教授は1つ1つにとっても紳士的に付き合って下さり、また事ある度にレストランやバーでご馳走して頂いた。本当にこれまでの私の人生で至福の期間であったとしみじみ思う。

== 支部報告 =====

---北海道支部-----

北海道支部編集委員 佐藤 昌明

1. 北海道支部総会報告

平成22年度の日本病理学会北海道支部総会が平成22年10月30日(土)に開催された。本総会において平成21年度の支部事業報告、会計報告が行なわれ了承された。また22年度の支部活動予定、予算案が提示され承認された。

2. 学術集会報告

1) 第43回北海道病理談話会

第43回北海道病理談話会が平成22年10月30日(土)に北大医学部フラテ会館で北大腫瘍病理、田中伸哉教授を世話人として開催された。一般演題17題、特別講演2題の合計19題の演題が発表され、活発な討論がおこなわれた。

尚、本年度の特別講演は以下のとおりです。

特別講演1:「成熟肝細胞の胆管上皮細胞への分化転換-その肝発生および慢性肝障害における意義」

西川祐司(旭川医大病理学講座腫瘍病理分野)

特別講演2:「生体肝移植の病理」

羽賀博典(京都大学医学部附属病院病理診断部)

2) 第144回標本交見会

第144回標本交見会が平成22年11月13日(土)に札幌医大、臨床第1講義室で札幌医大第二病理、澤田典均教授を世話人として開催された。以下に症例を記載する。

番号/発表者(所属)/演題名/年齢・性別/臨床診断/最終診断

10-14/武田広子(北海道がんセンター病理診断科)/高齢女性の後腹膜に発生した特異な像を示す軟部腫瘍/70代・女性/

後腹膜腫瘍/Liposarcoma with whorls formation

10-15/川名 聡(北大病院病理部)/下肢筋力低下にて発症した1例/40代・男性/下肢筋力低下/Intravascular large B-cell lymphoma

10-16/辻 隆裕(市立札幌病院病理診断科)/肺の乾酪性肉芽腫の1例/60代・男性/肺腫瘍疑い/Histoplasmosis

10-17/谷野美智枝(北大腫瘍病理)/プロスタサイクリン抵抗性の著明な肺高血圧症を呈し死亡した70代女性/70代・女性/肺高血圧症/Pulmonary vascular occlusive disease(PVOD)

2. 今後の学術集会予定

第145回標本交見会

平成23年1月22日(土)、札幌医大、臨床第1講義室

第146回標本交見会

平成23年3月12日(土)、札幌医大、臨床第1講義室

---東北支部-----

東北支部業務・広報委員会委員長 鬼島 宏
第71回日本病理学会東北支部学術集会在、下記の要旨で開催された。

平成22年7月17日(土)~18日(日) 山形市 山形テルサ

特別講演: 細胞接着・極性形成とヒト疾患

(演者 千葉英樹、福島県立医科大学)

教育講演1: 皮膚病理診断ABC

(演者 泉 美貴、東京医科大学)

教育講演2: 胃癌取り扱い規約改訂のポイント、Group分類のコンセプト

(演者 中村眞一、DPR株式会社)

一般演題: 17題

各演題ともに、活発なかつ有意義な討議が行われた。以下は、一般演題一覧と座長総括に基づく診断です。

1. 左乳腺腫瘍の1例(演者 刑部光正、山形県立中央病院)
最終診断: Secretory carcinoma
2. 乳腺腫瘍の1例(演者 工藤和洋、市立函館病院)
最終診断: Diabetic mastopathy
3. 診断に苦慮した肺腫瘍の1例(演者 無江良晴、岩手医科大学)
最終診断: Large cell neuroendocrine carcinoma
4. 乳幼児突然死症候群の1例(演者 江村 巖、長岡赤十字病院)
最終診断: Cytokine-associated multiple organ failure, triggered by Gram-positive bacterial infection
5. 膀胱腫瘍の1例(演者 服部真也、弘前大学)最終診断: Carcinosarcoma
6. 卵巣腫瘍の1例(演者 渋谷理絵、仙台市立病院)
最終診断: Metastatic adenocarcinoma (primary: gastric cancer) 間質細胞の増生を伴う転移性癌
7. 頭部外傷の精査で偶然発見された脳室内腫瘍の1例(演者 武山淳二、宮城県立こども病院)最終診断: Subependymal giant cell astrocytoma
8. 確定診断に免疫染色が有用であった小児脳腫瘍の1例(演者 黒瀬 顕、岩手医科大学)最終診断: Atypical teratoid/rhabdoid tumor
9. 尿管腫瘍の1例(演者 山上紗矢佳、弘前大学)最終診断: MALT lymphoma
10. 甲状腺腫瘍の1例(演者 長沼 廣、仙台市立病院)
最終診断: Follicular carcinoma+atypical stromal cell proliferation due to FNA
11. 脾腫瘍の1例(演者 阿保亜紀子、岩手医科大学)
最終診断: Lymphoplasmacytic lymphoma (Waldenstrom)
12. 全身に多発する浸潤性紅斑の1例(演者 岩場晶子、山形大学)
最終診断: Primary CD4+ cutaneous small/medium T-cell lymphoma (sarcoidosis-lymphoma syndrome)
13. 腹腔内膿瘍の1例(演者 工藤まどか、鶴岡市立荘内病院)
最終診断: GIST with abscess formation
14. 鼻腔腫瘍の1例(演者 郡司真理子、福島県立医科大学)
最終診断: Mesenchymal chondrosarcoma
15. 重度の腎障害に呼吸不全を合併し剖検になった若年女性の1例(演者 佐藤聡子、東北大学)最終診断: Malignant nephrosclerosis + uremic lung
16. 仙尾部皮下嚢胞性腫瘍の1例(演者 若松早穂、福島県立医科大学)
最終診断: Anaplastic ependymoma
17. 大腸ポリポースの1例(演者 武藤鮎美、山形大学)
最終診断: Clear cell adenocarcinoma in adenoma

---関東支部-----

関東支部支部長 加藤 良平

下記の内容で第49回(社)日本病理学会関東支部学術集会在(第131回東京病理集談会)が開催されました。当日は160名を越える参加者があり、特別講演2題と一般演題(剖検例6題)について活発な討議が行われました。

日時：平成22年12月11日(土)13:00～15:30

会場：日本医科大学(教育棟2階講堂、講義室)

世話人：内藤 善哉

日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学)

【特別講演】「病理に關係する医療問題・訴訟について」

1. 病理医の立場から

佐々木 毅(横浜市立大学附属市民総合医療センター病理部)

座長：石渡 俊行(日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学))

2. 弁護士の立場から

麻生 利勝(麻生総合法律事務所)

座長：土屋 眞一(日本医科大学付属病院病理部)

【一般演題(剖検例)】

813. 「羊水過少と無尿を認め、腎レニン高発現が見られたrenal tubular dysgenesisの一例」小沼純子、木村徳宏、岡田保典(慶應義塾大学医学部病理学教室)

座長：福澤 龍二(都立小児総合医療センター検査科)

814. 「BP系薬剤関連顎骨壊死(BRON)を来した慢性関節リウマチ・乳癌術後の一剖検例」竹本暁¹⁾、市村香代子¹⁾、櫻井うらら¹⁾、廣岡信一¹⁾、小林大輔¹⁾、河内洋¹⁾、細谷匡²⁾、明石巧¹⁾、北川昌伸¹⁾、江石義信¹⁾(東京医科歯科大学病理¹⁾、東京医科歯科大学膠原病リウマチ内科²⁾)

座長：上田 善彦(獨協医科大学越谷病院病理部)

815. 「巨細胞性心筋炎の可能性が疑われた補助人工心臓装着症例」山口浩¹⁾、清水禎彦²⁾、永田耕治¹⁾、桜井孝規¹⁾、村田晋一¹⁾、安田政実¹⁾、清水道生¹⁾(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科¹⁾、埼玉県立循環器・呼吸器病センター病理診断科²⁾)

座長：石井 壽晴(東邦大学医学部病理学講座)

816. 「酵素補充療法4年目に脳出血で死亡した古典的Fabry病の一剖検例」許田典男、松田陽子、恩田宗彦、内蔵善哉(日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学))

座長：小林 慎雄(東京女子医科大学病理学第一講座)

817. 「難治性頭痛の経過中、出血傾向、呼吸不全をきたし死亡した61歳男性」廣井敦子、山本智子、澤田達男、小林慎雄(東京女子医科大学 病理学第一講座)

座長：澁谷 誠(東京医科大学茨城医療センター病理診断部)

818. 「AML発症後8年、2回目の同種造血幹細胞移植後に吐血を契機に発見された多発食道腫瘍の1剖検例」森田茂樹¹⁾、池村雅子²⁾、後藤明輝²⁾、高澤豊²⁾、宇崎崎宏¹⁾、深山正久^{1,2)}(東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学¹⁾、東京大学医学部附属病院病理部²⁾)

座長：清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

第34回関東支部・千葉地区集会(2010年10月30日)

症例番号/出題者所属/発表者/年齢性別/出題名/診断

34-1/千葉大学大学院医学研究院病態病理/富居一範,他/女児/思春期早発症にて発見された嚢胞性卵巣腫瘍の1例/sex cord tumor with annular tubules

34-2/東邦大学医療センター佐倉病院病理部/梶幸子,他/70歳代男性/縦隔リンパ節腫瘍の1例/cytokeratin-positive interstitial reticulum cell tumors of lymph nodes

34-3/成田赤十字病院病理部/小豆畑康児,他/10代男性/心筋炎の合併が考えられた新型インフルエンザ感染症の剖検例/ウイルス性肺炎・ウイルス性心筋炎

第56回埼玉病理医の会

期日：2010年11月12日(金)

会場：獨協医科大学越谷病院

世話人：上田善彦・今井康雄

参加者人数：25名

症例検討：

出題者所属・氏名/年齢・性/臓器・臨床診断(問題点)/病理診断

1) 埼玉協同病院 石津英喜/71歳・男性/体重減少で受診、画像で脾臓に内部に壊死物質充滿する12cm大の境界明瞭な腫瘍あり。内部に白色壊死物質充滿する嚢胞性病変あり、嚢胞壁内に隆起性の白色結節が複数あった。/脾臓の悪性多形性肉腫の1例。当日は組織型について意見交換を行った。

2) 自治医科大学さいたま医療センター 野首光弘/28歳・男性/腎生検・糖尿病性腎症+顕微鏡的血尿/糖尿病性腎症と3本中1本に間質性変化(IgA腎症なし)。

3) 獨協医科大学越谷病院 鈴木 司/33歳・女性/卵巣腫瘍/undifferentiated carcinoma. 卵巣腫瘍の組織型について議論。

4) 済生会川口総合病院 伴 慎一/①70歳代・男性 ②60歳代・男性 ③40歳代・男性/大腸ポリープ生検(比較的異型が弱く、癌とするか意見が分かれる可能性が考えられた例)/切除検体の所見：①2.5cm大のtype 1、深達度SE ②2cm大のIp、深達度SM(900 μ m) ③0.5cm大のIs、深達度M(③は癌としない意見あり)。

5) 国立病院機構 東埼玉病院 芳賀孝之/75歳 男性/癌性胸膜炎で胸膜採取(術中迅速診断での病理診断の妥当性、原発部位は推定)/胸膜中皮腫、上皮型。

中部支部

中部支部編集委員 福岡 順也

第66回日本病理学会中部支部交際会(参加者数169)

世話人：名古屋市立大学病院病理部 高橋 智先生

I. 症例検討会

1149 演者診断 malignant triton tumor (malignant peripheral nerve sheath tumor with rhabdomyoblastic differentiation) 18歳女性/後腹膜 諏訪赤十字病院 杉浦義弥先生

1150 演者診断 lymphoangiomyoma(LAM) of the retroperitoneum 40歳代女性/後腹膜 福井大学医学部附属病院 今村好章先生

1151 演者診断 Non-tuberculous Mycobacterial infection of the skin; Buruli Ulcer [M. ulcerans or M. ulcerans subsp. shinshuense Infection] 50歳代女性/皮膚 岐阜市民病院中央検査部 山田鉄也先生

1152 演者診断 angiotensin receptor blocker fetopathy (ARBが原因の胎児病) 3ヶ月女児/腎 社会保険中京病院 佐藤朋子先生

1153 演者診断 invasive urothelial carcinoma, plasmacytoid variant 70歳代男性/膀胱 公立陶生病院 白木之浩先生

1154 演者診断 inflammatory myofibroblastic tumor 40歳代女性/膀胱 鈴鹿中央総合病院病理診断科 内山智子先生

1155 演者診断 adenoid cystic/ basal cell carcinoma 50歳代後半男性/前立腺 長野市民病院 大月聡明先生

1156 演者診断 Undifferentiated carcinoma of the salivary gland (large cell type) (AFIP)/Large cell carcinoma (WHO) 70歳代女性/耳下腺・肝臓 佐久総合病院臨床病理部 青柳大樹先生(Myoepithelial carcinomaとの意見が多かった。電子顕微鏡的所見が、上記診断に一致するとのことであった。)

1157 Sclerosing polycystic adenosis of the right parotid gland 2歳女性/唾液腺 静岡がんセンター病理診断科 草深 公秀先生(最近の遺伝子解析では、腫瘍性病変が疑われているとのことであった。)

1158 Pigmented atypical carcinoid tumor 70歳代後半男性/鼻腔 金沢医科大学 尾山 武先生(Paraganglioma, olfactory neuroblastomaなどの鑑別が問題となった。)

1159 Histiocytoid carcinoma (signet-ring cell carcinoma) of eyelid 70歳代男性/眼球 信州大学医学部附属病院 岩谷 舞先生(Moll glandへの分化が窺われるとのことであった。乳腺のinvasive lobular carcinomaとの類似性が指摘された。)

1160 Solitary capillary hemangioma of the lung 30歳代女性/肺 愛知県がんセンター 菅野 雅人先生(小静脈内にも血管の増生が見られ、腫瘍性病変が疑われるとのことであった。)

1161 Pulmonary capillary hemangiomatosis 0歳男児/肺 名古屋第二赤十字病院 後藤啓介先生(成人例との相違について議論された。1160と対照的な症例で、病態については、今後の解明が待たれるとのことであった。)

- 1162 Pulmonary veno-occlusive disease 10歳代男子/ 肺 三重中央医療センター 中林 洋先生 (VODの初期像を見ている可能性が考えられるとの見解であった。)
- 1163 Syringocystadenoma papilliferum of the nipple 20歳代男性/ 乳腺 笠島里美先生 (乳腺原発か皮膚原発かは、評価困難との意見が出された。炎症性変化の可能性を指摘する意見が出された。)
- 1164 Inflammatory myofibroblastic tumor 80歳代男性/ 胃 富山県立中央病院 相川 あかね先生 (悪性腫瘍は間違いないと考えられたが、IMTという診断が適切かどうか議論された。転移の可能性を考える意見も出された。Sarcoma, NOSとの意見もあった。)
- 1165 Granulocytic sarcoma 30歳代男性/ 小腸 藤田保健衛生大学病院 熊澤 文久先生 (肉眼的に緑色に見えると言われているが、切った直後にしか緑色を呈さず、MPOの銅に関連しているとの意見が出された。)
- 1166 Multiple sclerosis, Marburg's variant 60歳代女性/ 脳 静岡がんセンター病理診断科 渡邊 麗子先生 (腫瘍との鑑別が問題となる疾患で、詳細な解説がなされた。神経内科医、放射線医との密な連携により診断可能との意見が出された。)

II. 講演会

「HER2検査の現状と今後の課題」†

国立がん研究センター中央病院 病理科・臨床検査科科长 津田 均

中部支部・東海病理学会

第255回

(平成22年8月7日参加者13名於:藤田保健衛生大学)

症例番号 病院 病理医 年齢(歳代) 性 臓器 臨床診断病理組織学的診断

- 4142 みよし市民病院 北川 諭 30 女 リンパ節 リンパ節腫瘍
Silicone deposition
- 4143 新城市市民病院 黒田 誠 60 女 後腹膜 後腹膜腫瘍
Castleman's disease
- 4144 藤田保健衛生大学 浦野 誠 30 女 腎 腎癌 Oncocytoma
- 4145 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 70 男 腎 腎癌
Collecting duct carcinoma
- 4146 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 40 男 副腎 副腎腫瘍 Angiosarcoma
- 4147 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 70 女 乳腺 乳癌
Myoepithelial carcinoma
- 4148 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 50 男 大腸 感染性腸炎
Intestinal spirochetosis
- 4149 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 70 男 胃 胃癌
Papillary adenocarcinoma
- 4150 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 40 女 食道 食道狭窄疑い
Epidermization
- 4151 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 70 女 胃 粘膜下腫瘍
Inflammatory fibroid polyp
- 4152 静岡赤十字病院 笠原正男 60 男 肝 肝腫瘍 Typical carcinoid
- 4153 静岡赤十字病院 笠原正男 80 女 甲状腺 甲状腺腫瘍
Adenomatous goiter
- 4154 小牧市民病院 栗原 恭子 50 女 皮膚 軟性線維腫
Fibroepithelial basal cell carcinoma

第256回

(平成22年9月25日参加者17名 於:藤田保健衛生大学)

- 4155 藤田保健衛生大学 高桑 康成 60 男 皮膚 悪性黒色腫疑い
Malignant melanoma in situ
- 4156 藤田保健衛生大学 高桑 康成 30 女 子宮 子宮筋腫
Uterine tumor resembling ovarian sex-cord tumor
- 4157 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 30 男 副腎 副腎皮質腫瘍
Calcifying fibrous tumor
- 4158 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 70 男 腎リンパ節 IgG4関連病変
IgG4-related sclerotic disease
- 4159 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 40 男 回盲部 悪性リンパ腫疑い

- Burkitt-like lymphoma
- 4160 藤田保健衛生大学 黒田 誠 40 女 腎 無機能腎
Mixed epithelial stromal tumor
- 4161 江南厚生病院 福山 隆一 60 女 肺 肺癌 Papillary carcinoma
- 4162 江南厚生病院 福山 隆一 70 女 軟部 脂肪腫疑い Trichilemmal tumor
- 4163 愛知がんセンター中央病院 谷田部 恭 60 女 肝 肝腫瘍
Thyroid tissue
- 4164 愛知がんセンター中央病院 管野 雅人 60 男 胃 胃腺腫
Adenoma with carcinoid
- 4165 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 60 女 肝 肝細胞癌 Angiomyolipoma
- 4166 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 60 男 膀胱 膀胱腫瘍
Signet ring cell carcinoma

第257回

(平成22年10月16日参加者14名 於:藤田保健衛生大学)

- 4167 清水厚生病院 浦野 誠 50 男 リンパ節 ホジキン病疑い
IgG4-related lymphadenopathy
- 4168 藤田保健衛生大学 浦野 誠 2 女 肝 肝芽腫
Hepatoblastoma post chemotherapied phase
- 4169 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 70 女 回腸 重積症
Inflammatory fibroid polyp
- 4170 藤田保健衛生大学 桐山 諭和 40 女 後腹膜 脂肪腫
Angiomyolipoma
- 4171 トヨタ記念病院 黒田 誠 40 女 リンパ節 骨盤内リンパ節腫大
Lymphangiomyomatosis
- 4172 トヨタ記念病院 黒田 誠 30 男 耳 外中耳内腫瘍
Middle ear adenoma
- 4173 トヨタ記念病院 黒田 誠 60 女 副腎 副腎腫瘍 Myelolipoma
- 4174 名古屋記念病院 黒田 誠 70 男 肝 肝細胞癌 MALToma
- 4175 江南厚生病院 福山 隆一 60 男 脳 脳炎 Angitis, suspected
- 4176 江南厚生病院 福山 隆一 70 男 尿道内 前立腺ポリープ Granulation
- 4177 静岡赤十字病院 笠原正男 70 男 胃 粘膜下腫瘍
Segmental arterial mediolysis
- 4178 静岡赤十字病院 笠原正男 70 男 肺 肺癌 Sugar tumor, suspected
- 4179 静岡赤十字病院 笠原正男 50 男 胸膜 胸膜炎
Malignant mesothelioma
- 4180 静岡赤十字病院 笠原正男 70 男 小腸 小腸出血 Varix
- 4181 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 60 男 肺 肺腫瘍 Large cell carcinoma
- 4182 小牧市民病院 栗原 恭子 60 女 皮下 皮下腫瘍 Benign fibrous tumor
- 4183 小牧市民病院 栗原 恭子 30 男 脳 脳腫瘍 Anaplastic ependymoma

第258回

(平成22年11月13日参加者14名 於:藤田保健衛生大学)

- 4184 愛知がんセンター愛知病院 高桑 康成 30 男 胸壁 胸壁腫瘍
Fibrous borderline tumor with osteometaplasia
- 4185 藤田保健衛生大学 黒田 誠 20 男 後腹膜 副腎腫瘍
Embryonal carcinoma
- 4186 トヨタ記念病院 黒田 誠 30 女 胎盤 妊娠高血圧症 Chorangioma
- 4187 トヨタ記念病院 黒田 誠 30 女 胎盤 胎盤血腫 Chorangioma
- 4188 藤田保健衛生大学 黒田 誠 60 男 肝 肝細胞癌
Hepatocellular carcinoma with sarcoidosis
- 4189 藤田保健衛生大学 黒田 誠 60 男 回盲部 回盲部腫瘍
Diverticulitis with sarcoid reaction
- 4190 鈴鹿中央総合病院 内山 智子 70 女 肺 肺腫瘍 Typical carcinoid
- 4191 鈴鹿中央総合病院 内山 智子 70 女 胸壁 胸壁腫瘍
Solitary fibrous tumor with hyalinization
- 4192 大垣市民病院 岩田 洋介 70 男 リンパ節 悪性リンパ腫
Follicular lymphoma grade 3B
- 4193 小牧市民病院 栗原 恭子 60 女 肝 肝嚢胞腺癌 Degenerated cyst
- 4194 小牧市民病院 栗原 恭子 80 男 結腸 結腸癌 Endocrine carcinoma
- 4195 鈴鹿中央総合病院 村田 哲也 30 女 脊髄 馬尾腫瘍
Myxopapillary ependymoma

第259回

(平成22年12月4日 参加者14名 於:藤田保健衛生大学)

- 4196 名古屋記念病院 西尾知子 80 男 軟部 血管腫疑い
High grade sarcoma
- 4197 トヨタ記念病院 北川 諭 20 男 皮膚 頭部皮膚腫瘍
Juvenile xanthogranuloma
- 4198 トヨタ記念病院 北川 諭 70 女 肺 肺腫瘍 MALToma
- 4199 藤田保健衛生大学 浦野 誠 60 男 十二指腸 十二指腸閉塞
Duplication
- 4200 藤田保健衛生大学 浦野 誠 60 女 卵巣 卵巣癌
Endometrial adenocarcinoma
- 4201 藤田保健衛生大学 桐山諭和 20 女 腎 血管筋脂肪腫
Angiomyolipoma
- 4202 江南厚生病院 福山隆一 50 男 肺 肺癌
Poorly differentiated squamous cell carcinoma
- 4203 江南厚生病院 福山隆一 60 男 耳下腺 耳下腺腫瘍
Acinic cell carcinoma
- 4204 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 50 女 耳下腺 耳下腺腫瘍
Low grade adenocarcinoma, N.O.S
- 4205 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 80 女 膀胱 膀胱癌 Malakoplakia
- 4206 静岡赤十字病院 笠原正男 60 女 後腹膜 後腹膜腫瘍
Leiomyosarcoma
- 4207 静岡赤十字病院 笠原正男 50 女 脳 脳腫瘍 Atypical meningioma
- 4208 静岡赤十字病院 笠原正男 70 女 回盲部 小腸多発性ポリープ
Multiple polypoid lymphoproliferative lesion
- 4209 静岡赤十字病院 笠原正男 80 女 卵巣 卵巣腫瘍疑い
Sertoli-stromal tumor with intermediate differentiation

第260回

(平成23年1月8日 参加者20名 於:藤田保健衛生大学)

- 4210 愛知がんセンター愛知病院 高桑康成 60 女 軟部 血腫疑い
Extraskelatal osteosarcoma
- 4211 トヨタ記念病院 北川 諭 30 女 膝 膝尾部腫瘍
Solid-pseudopapillary tumor
- 4212 新城市市民病院 黒田 誠 70 男 リンパ節 悪性リンパ腫疑い
Dermatopathic lymphadenitis
- 4213 江南厚生病院 福山隆一 10 男 皮膚 線維腫 Dermatofibroma
- 4214 江南厚生病院 福山隆一 80 女 胃 胃癌 Adenocarcinoma
- 4215 鈴鹿中央総合病院 内山智子 60 女 乳腺 乳腺腫瘍
Adenomyoepithelioma
- 4216 鈴鹿中央総合病院 内山智子 30 女 膝 膝尾部腫瘍
Serous cystadenoma
- 4217 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 女 耳下腺 耳下腺腫瘍
Lymphoepithelial cyst
- 4218 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 40 男 肺 肺癌疑い
Granulomatous pneumonia
- 4219 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 70 女 涙腺 涙腺腫瘍
Mikulicz's disease
- 4220 静岡赤十字病院 笠原正男 40 女 皮膚 皮膚腫瘍
Anaplastic large cell lymphoma
- 4221 静岡赤十字病院 笠原正男 50 女 回腸 回腸腫瘍 MALToma

第22回 北陸病理集談会

平成22年10月23日(土)

世話人:伊藤 浩史

(福井大学医学部 病因病態医学講座腫瘍病理学領域)

於:福井大学医学部 臨床教育センター

- 症例1 福井大学・腫瘍病理学 法木左近 71歳 女性
Chordoma
- 症例2 黒部市民病院 高川清 76歳 男性
Extranodal NK-T cell lymphoma
- 症例3 富山大学 病態・病理学 石澤伸 20歳代前半 男性
Testicular teratoma with nephroblastoma-like component
- 症例4 金沢大学・分子細胞病理学 大井章史 81歳 男性
Dedifferentiated liposarcoma
- 症例5 金沢医療センター 笠島里美 60歳代後半 男性
Adenocarcinoma (sig)
- 症例6 富山大学・病理診断学 野本一博 60歳代後半
Intraductal papillary neoplasia of the bile duct
- 症例7 金沢大学・形態機能病理学 佐藤保則 52歳 女性
Moderately differentiated Hepatocellular carcinoma with bile ductular differentiation (stem / progenitor cell phenotype)
- 症例8 城北病院・病理科 袖本幸男 60歳代 女性
Inflammatory fibroid polyp
- 症例9 富山県立中央病院 内山明央 69歳 男性
Clear cell carcinoma of the gall bladder
- 症例10 福井赤十字病院 大田諒 80歳代 男性
IgG4-related disease (Lymphoplasmacytic, Sclerosing pancreatitis)
- 症例11 金沢医科大学・病理学II 佐藤勝明 70歳 女性
Solid serous adenoma of the pancreas
- 症例12 金沢医科大学・臨床病理学 黒瀬望 60歳 女性
Metastatic adenocarcinoma of the pancreas from ovary.

—近畿支部—

近畿支部編集委員 大山 秀樹

1. 日本病理学会近畿支部主催 夏期病理診断セミナー「夏の学校」開催報告

平成22年8月21日・22日の2日間にわたり、京都大学医学研究科総合解剖センター講義室において、日本病理学会近畿支部主催の夏期病理診断セミナー「夏の学校」が、「病理診断における遺伝子解析の意義」と題して開催されました。講師の先生方には、外の暑さに負けないぐらい「熱い」ご講演をいただき、盛会のうちに終了することができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

以下に、プログラムを掲載させていただきます。

8月21日(土曜日)13時~18時

- 講演1. 遺伝子解析の基本 鶴山 竜昭 先生(京都大学附属病院・病理診断部)
講演2. 肺癌 吉澤 明彦 先生(京都大学附属病院・病理診断部)
講演3. 悪性リンパ腫 和田 直樹 先生(大阪大学・病態病理学)
講演4. 骨・軟部腫瘍 小西 英一 先生(京都府立医科大学・人体病理学)
講演5. 婦人科腫瘍 河内 茂人 先生(山口大学・分子病理学)
~終了後 懇親会~

8月22日(日曜日) 9時~12時

- 講演6. 胃・大腸癌 九嶋 亮治先生(国立がん研究センター中央病院・病理科)
講演7. 脳腫瘍 横尾 英明 先生(群馬大学・病理学)
講演8. 遺伝子解析のsurrogate
伊藤 智雄先生(神戸大学附属病院・病理診断科)

2. 学術集会報告

平成22年9月11日に京都府立医科大学に於きまして、第50回日本病理学会近畿支部学術集会(世話人:京都府立医科大学 伏木信次先生、モデレーター:大手前病院 有馬良一先生)が「消化管の疾患」をテーマとして開催されました。以下

に、プログラムを掲載いたします。(なお、検討症例、画像等につきましては、http://jspk.umin.jp/reg-meetings/2010reg-meeting/50th_kyoto_100911/50th_Program.htm で閲覧可能です。)

症例検討

座長: 平野 博嗣 先生(新日鐵広畑病院)

- 750 成人結腸Hypoganglionosisの一切除例
山下 大祐 先生、他(神戸市立医療センター中央市民病院)
- 751 S状結腸過長症および弛緩症の一例
筑後 孝章 先生、他(近畿大学医学部、他)
- 752 膵腫瘍の1例
原田 博史 先生、他(市立堺病院)
座長: 坂 貴司 先生(関西医科大学)
- 753 肋骨内病変の一例
堀 由美子 先生、他(大阪大学大学院医学系研究科)
- 754 椎体部腫瘍の1例
夏山 順子 先生、他(神戸大学医学部附属病院、他)
- 755 腎盂腫瘍の一例
藤本 正教 先生、他(財団法人田附興風会医学研究所北野病院)
- 756 不明熱・黄疸で発症し急速な転帰をとった肝脾腫を伴う60代男性の1剖検例
平野 博嗣 先生、他(新日鐵広畑病院、他)

教育講演:

「胃癌の増殖・進展における微小環境 -骨髄由来間葉系幹細胞の役割-」
仙波 秀峰 先生(神戸大学)

座長: 森井 英一 先生(大阪大学)

特別講演: 「炎症性腸疾患(広義)の診断」

清水 誠治 先生(大阪鉄道病院 消化器内科)

座長: 伏木 信次 先生(京都府立医科大学)

病理講習会: 「消化管の疾患」

座長: 眞能 正幸 先生(大阪医療センター)

- 1) 食道上皮内腫瘍の病理診断 -どの程度の異型病変から癌と診断するか??
柳沢 昭夫 先生(京都府立医科大学)
- 2) 胃Group分類の変更に境界領域病変の診断 (病理診断困難症例の解説含む)
石黒 信吾 先生(PCL JAPAN)
座長: 岸本 光夫 先生(京都府立医科大学)
- 3) 大腸の前癌病変
丸嶋 亮治 先生(国立がん研究センター中央病院)
- 4) 消化管感染症の生検病理診断
井上 健 先生(大阪市立総合医療センター)
座長: 有馬 良一 先生(大手前病院)
- 5) 消化管における悪性リンパ腫?その診断と鑑別?
平塚 拓也 先生(大阪府済生会野江病院)

4. 市民公開講座 開催報告

平成22年12月12日(日曜日)、「市民公開講座 ～胃癌・大腸癌の診断と治療の最前線～」が、京都府立医科大学において盛況裡に開催されました。本年度は、京都府立医科大学と日本病理学会近畿支部との共催で行われ、多くの方々にお集まりいただきました。

以下に、プログラムを掲載いたします。

基調講演

胃癌と大腸癌: 治らない病から治る病へ

柳澤 昭夫 先生(京都府立医科大学大学院・人体病理学)

(第I部) 胃癌

早く視つけてやさしく癒す 早期胃癌はこわくない

八木 信明 先生(京都府立医科大学大学院・消化器内科)

胃癌における外科的治療の現状と抗がん剤治療について

市川 大輔 先生(京都府立医科大学大学院・消化器外科)

(第II部) 大腸癌

大腸癌における最新の内視鏡診断・治療と進行情形に対する抗がん剤治療

吉田 直久 先生(京都府立医科大学大学院・消化器内科)

大腸癌における低侵襲な外科的治療

國場 幸均 先生(京都府立医科大学大学院・消化器外科)

5. 学術集会報告

平成22年12月11日(土曜日)関西医科大学に於いて、第51回日本病理学会近畿支部学術集会(世話人: 近畿大学医学部病理学教室 佐藤 隆夫先生、モデレーター: 兵庫県立がんセンター病理診断科 大林 千穂先生)が「胸部の疾患」をテーマとして開催されました。

以下に、プログラムを掲載いたします。(なお、検討症例、画像等につきましては、http://jspk.umin.jp/reg-meetings/2010reg-meeting/51th_Kansai_101211/51th_Program.htm で閲覧可能です。)

症例検討

座長: 山内 周 先生(東大阪市立総合病院)

757. 皮下腫瘍の一例
中野 麗香 先生、他(関西医科大学附属枚方病院)
758. 腸間膜腫瘍の1手術例
坂 貴司 先生、他(関西医科大学)
759. 胃粘膜下腫瘍の1例
神澤 真紀 先生、他(神戸大学医学部附属病院)
760. 脊椎腫瘍の1例
久保 勇記 先生、他(大阪市立総合医療センター、他)
座長: 南口 早智子 先生(京都医療センター)
761. 肺血管内腫瘍の一例
野島 聡 先生、他(大阪大学大学院医学系研究科)
762. 肺癌切除標本の背景肺に凝固壊死巣を認めた一例
西尾 真理 先生、他(神戸市立医療センター中央市民病院)
763. 良悪の鑑別が困難であった肺末梢性の腫瘍様病変2例
上田 佳世 先生、他(国立病院機構刀根山病院、他)
764. 肺腫瘍の1例
原田 博史 先生、他(市立堺病院)
765. 粘液塊に好酸球集簇巣が認められた副鼻腔炎の1例
土手 健作 先生、他(近畿大学)

特別講演: 「肺癌治療のパラダイムシフトに伴う病理組織診断の意義」

谷田部 恭 先生(愛知県がんセンター 遺伝子病理診断部)

座長: 佐藤 隆夫 先生(近畿大学)

病理講習会: 「胸部の疾患」

座長: 笠井 孝彦 先生(奈良県立医科大学)

- 1) 肺腺癌の増殖に関わる遺伝子異常 -特にEGFR下の細胞質内経路に関して-
吉澤 明彦 先生(信州大学医学部 病態解析断学講座)
- 2) ALK肺癌の病理
辻本 正彦 先生(大阪警察病院)
- 3) 肺扁平上皮癌の診断に有用なマーカー
酒井 康裕 先生(兵庫県立がんセンター)
座長: 大林 千穂 先生(兵庫県立がんセンター)
- 4) 良悪の鑑別が困難であった肺腫瘍様病変の2例
北村 昌紀 先生(大阪府立成人病センター)
- 5) 肺良性病変の鑑別診断
塚本 吉胤 先生(兵庫医科大学)

6. 今後の開催予定

次回学術集会

第52回 日本病理学会近畿支部学術集会

日時: 平成23年2月26日(土)

場所:兵庫医科大学
世話人:田中 昭男 先生 (大阪歯科大学)
テーマ:泌尿器の疾患
モデレーター:島田 啓司 先生 (奈良県立医科大学)

---中国四国支部-----

中国・四国支部編集委員 藤原 恵

A. 開催報告

1. 第103回学術集会

開催日:平成22年11月6日(土)

場所:呉共済病院多目的ホール

世話人:呉共済病院 病理診断科 佐々木なおみ部長

学会シーズンでしたが、繰り越しを含む18演題が集まり、熱い討議がなされました。スライドカンファレンスに先立ち、病理学会副理事長 向井 清先生との意見交換会が開かれ、終了後は会場から徒歩10分の大和ミュージアム隣で懇親会が行われました。発表スライドや投票結果は

<<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>>から見る事が出来ます。

演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断

S2307/頭蓋底腫瘍/高田理恵(岩国医療センター臨床検査科)/

Adamantinoma like Ewing family tumor/PNET

S2308/咽頭後間隙腫瘍/林 俊哲(香川大学医学部附属病院病理部)/

Neuroglial heterotopia/concord

S2309/小脳腫瘍/藤原英世(川崎医科大学病理学)/

Rosette-forming glioneuronal tumor/concord

S2310/脳腫瘍/荒木亜寿香(島根大学医学部器官病理学講座)/

Rosette-forming glioneuronal tumor/concord

S2311/左乳房腫瘍/西村理恵子(四国がんセンター臨床検査科)/

Microglandular adenosis/concord

S2312/前腕軟部腫瘍/遠藤秀子(徳島大学大学院人体病理学分野)/

Perineurioma, borderline malignancy/Fibrosarcoma

S2313/口蓋腫瘍/常松貴明(広島大学口腔顎顔面病理病態学)/

Polymorphous low-grade adenocarcinoma/concord

S2314/耳下腺腫瘍/増田 渉(倉敷中央病院病理検査科)/

Salivary duct carcinoma and pleomorphic adenoma extending into Warthin tumor/Carcinoma ex pleomorphic adenoma

S2315/耳下腺腫瘍/石川典由(島根大学医学部器官病理学講座)/

Epithelial-myoeithelial carcinoma/concord

S2316/肺びまん性病変/曾我美子(愛媛大学医学部附属病院病理部)/

Multicentric Castleman disease/Malignant lymphoma

S2317/肺腫瘍/松浦博夫(広島市立広島市民病院病理部)/

Adenoid cystic carcinoma/concord

S2318/腎腫瘍/黒田直人(高知赤十字病院病理診断科)/

Acquired cystic disease-associated renal cell carcinoma/concord

S2319/腎生検組織/酒井亮太(香川大学医学部附属病院病理部)/

Anti-GBM glomerulonephritis and membranous glomerulonephritis/Crescentic glomerulonephritis

S2320/腎盂腫瘍/中山宏文(広島鉄道病院臨床検査室)/

Urothelial carcinoma, sarcomatoid variant/Carcinosarcoma

S2321/膀胱粘膜病変/庄盛浩平(鳥取大学医学部器官病理学分野)/

Schistosomiasis hematuria (Bilharzia)/concord

S2322/後腹膜リンパ節病変/眞鍋明広(岡山大学病理・病態学)/

Marginal zone lymphoma with IgG4 producing/Malignant lymphoma

S2323/消化管内異物/阿南勝宏(広島大学分子病理学)/

Adenomyoma/Hamartoma

S2324/肝嚢胞性病変/藤井将義(広島大学附属病院病理部)/

Echinococcosis/concord

2. 第7回日本病理学会カンファレンス開催報告

世話人:松川昭博(岡山大学医歯薬学総合研究科病理学)

平成22年8月6日(金)-7日(土)、岡山コンベンションセンターにて、第7回日本病理学会カンファレンスを開催しました。岡山駅およびホテルに隣接したアクセス抜群の会場は、最新の機材を有した新しい施設で、参加者の皆様に大変好評でした。本カンファレンスは「炎症と免疫、がん」をメインテーマに、炎症の分子基盤、炎症と免疫異常、炎症とがん、について考えました。例年になく酷暑の中、合計107名の皆様に参加いただきました。病理学会内外で活躍中の10名の招待演者(下表:五十音順、*は病理学会員)のレクチャーでは、炎症と免疫、炎症と発がん、炎症とがん増殖、について最前線の研究成果が紹介され、活発な質疑応答が行われました。今回のテーマはタイムリーな話題であり、第一線で活躍する研究者の講演内容はレベルが高く、多くの参加者から好評をいただきました。

岩倉洋一郎:免疫、骨代謝に於けるC型レクチンの役割

梅沢一夫:低分子シグナル伝達阻害剤の探索と病態解析・医薬開発への応用

大島正伸:胃がん発生を促進する炎症反応の分子機序

岡田保典*: MMP/ADAMの病理学的研究:ADAM28の癌細胞増殖・転移での役割を中心にして。

柴田龍弘*:ゲノム解読から見たウイルス性肝発がん

竹田潔:自然免疫系の活性制御と炎症性腸疾患

仁木利郎*:癌と創傷治癒-浸潤先進部の研究から考えたこと

畠山昌則:胃癌発症におけるヘリコバクター・ピロリの役割

松川昭博*:炎症とサイトカインシグナル伝達

森井英一*:炎症の腫瘍動態への影響について

ポスター演題には19題の応募がありました。今回は新たな取り組みとして全演者に1分間のプレゼンテーションをお願いし、引き続いてポスター発表の時間を設けました。参加者全員がポスター内容を事前に聞いたため、ポスター発表ではより活発な意見交換が行われたと思います。ポスター演題発表に対して、病理学会理事長、学術委員長、研究推進委員長、招待演者、座長の投票で上位2名を選出して優秀ポスター賞を授与しました。若手研究者のモチベーション向上・維持に役立つと考えています。後日、撮影した多数の写真をウェブサイトへアップロードして参加者全員で共有できるようしました。このような会が開催できたのは病理学会からの経済的支援のおかげであり、今後の開催にも同様なご高配をお願いしたいと思います。

B. 開催予定

1. 第104回学術集会

開催日:平成23年2月19日(土)

世話人:山口大学大学院病理形態学 池田栄二教授

会場:山口大学医学部第3講義室

内容:スライドカンファレンス

2. 第105回学術集会

開催日:平成23年6月頃

世話人:香川大学・羽場礼次教授

-----九州・沖縄支部-----

九州・沖縄支部編集委員 小田 義直
第318回九州・沖縄スライドカンファレンスが下記のように開催されました。

日時:平成22年11月6日

場所:熊本大学医学部 総合研究棟

世話人:熊本大学大学院生命科学研究部

細胞病理学分野 竹屋元裕 教授

機能病理学分野 伊藤隆明 教授

参加人数:133名

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会: 清水道生(委員長)、堤 寛(副委員長)、望月 眞(副委員長)、佐藤昌明(北海道支部)、鬼島 宏(東北支部)、上田善彦(関東支部)、福岡順也(中部支部)、大山秀樹(近畿支部)、藤原 恵(中国・四国支部)、小田 義直(九州・沖縄支部)

学術講演

演題名:「腎腫瘍 up to date 2010s」

演者:横浜市立大学大学院医学研究科分子病理部門 長嶋 洋治 准教授

症例検討

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/

出題者診断/投票最多診断(投票数 41)

- 1/ 原岡 誠司/ 福大筑紫病院/ 60代/ 女/ 肺(右上葉)/ Lymphoid interstitial pneumonia-like lesion/ Inflammatory pseudotumor
- 2/ の野 浩士/ 飯塚病院/ 10代/ 女/ 肺(右下葉)/ Well-differentiated fetal adenocarcinoma/ Well-differentiated fetal adenocarcinoma
- 3/ 神尾 多喜浩/ 済生会熊本病院/ 40代/ 男/ 後縦隔/ Extramedullary hematopoiesis/ Extra medullary hematopoiesis
- 4/ 大西 紘二/ 熊本大学病院病理部/ 60代/ 男/ 胸腺/ Sclerosing thymoma/ Sclerosing thymoma
- 5/ 菊間 幹太/ 福岡大学病理部/ 40代/ 女/ 縦隔/ MALT lymphoma/ MALT lymphoma
- 6/ 渡辺 次郎/ 公立八女病院/ 70代/ 女/ 肝/ Adenosquamous carcinoma/ Adenosquamous carcinoma
- 7/ 石原 明/ 県立延岡病院/ 40代/ 男/ 腎/ Renal cell carcinoma, 6p21 translocation/ Renal cell carcinoma, Xp11.2 translocation
- 8/ 吉河 康二/ 別府医療センター/ 30代/ 男/ 副睾丸/ Infarcted adenomatoid tumor/ Inflammatory pseudotumor
- 9/ 田崎 貴嗣/ 九州労災病院/ 70代/ 男/ 傍精巣/ Infarcted adenomatoid tumor/ Malignant mesothelioma
- 10/ 山下 篤/ 宮崎大学構造機能病態学/ 80代/ 女/ 子宮頸部・体部/ Endometrioid adenocarcinoma + adenoid basal carcinoma/ Endometrioid adenocarcinoma + adenoid basal carcinoma
- 11/ 伊地知 佳世, 中島 豊/九州大学病理病態学, 福岡赤十字病院病理部/ 20代/ 女/ 子宮体部/ Endometrioid adenocarcinoma, cord and hyalinized type/ Carcinosarcoma
- 12/ 二村 聡/ 福岡大学医学部病理学/ 50代/ 女/ 卵巣/ Sertoli-Leydig cell tumor/ Sertoli-Leydig cell tumor
- 13/ 島尾 義也/ 県立宮崎病院/ 80代/ 女/ 左乳房/ Myxofibrosarcoma/ Myxofibrosarcoma
- 14/ 本田 由美/ 熊本大学病院病理部/ 40代/ 女/ 後腹膜/ Retroperitoneal leiomyoma/ PEComa
- 15/ 久保 雄一郎/ 九州大学形態機能病理/ 70代/ 男/ 皮膚(踵)/ Superficial acral fibromyxoma/ Dermatofibroma
- 16/ 郭 ○, 山田 壮亮/産業医科大学第二病理学/ 70代/ 男/ 皮膚/ Leiomyosarcoma, dermal type/ Dermatofibroma protuberans
○は「金が3個重なった漢字」
- 17/ 伏見 文良/ 九州がんセンター病理診断科/ 80代/ 女/ 前頭部皮膚/ Angiosarcoma/ Angiosarcoma
- 18/ 杉田 保雄/ 久留米大学病理学/ 60代/ 男/ 右側脳質/ Ependymosarcoma/ Gliosarcoma